

おとさだ 乙 貞

第259号 通巻45第2号
令和7（2025）年6月1日発行

守山市立埋蔵文化財センター
〒524-0212 守山市服部町2250番地

TEL&Fax 077（585）4397
Mail maizobunkazai@city.moriyama.lg.jp

先月の歳時になりますが、去る5月5日には、ユネスコ無形文化遺産にも登録されている長刀祭りやすし切りまつり、市の無形民俗文化財の豊年踊りをはじめとする春祭りが市内各所で執り行われました。守山に限らず、全国津々浦々、春祭りの祭礼日は5月5日の一人勝ちの様相を呈していますが、このことは近代になってからのことで、例えば、長刀祭りが旧暦四月朔日の午の刻に、すし切りまつりは四月上旬の辰の日、豊年踊りも四月の第二の戌の日、新暦の4月下旬から5月中旬の間にそれぞれ斎行されていた記録があります。

5月5日は端午の節句で、古来より5節句のひとつとして祝われていましたが、新暦の導入に伴って、明治時代は廃止されます。そして、戦後間もない昭和23年に、端午の節句だけがこどもの日として祝日に返り咲くことになり、同時に、4月29日と5月3日も祝日に制定され、ゴールデンウィークの原型ができたことや、何よりも古来の例祭日に近かったことから、こぞって5月5日に鞍替えしたという背景があります。

国民感情に根差した文化的な祝日を標榜し、制定されましたが、その候補には、桃の節句の3月3日や元旦よろしく年度初めの4月1日が挙がっていました。もしも、他の候補日が祝日になっていたら、全国津々浦々で一斉に春まつりが行われることはなく、いくつものまつりを堪能できたかもしれません。

それでは、前号以降の発掘調査成果やイベントをお知らせいたします。

発掘調査だより

伊勢遺跡第142次調査

伊勢遺跡の広がりのある阿村町字上大洲で計画される工場建設と水路付け替え工事に先立って、伊勢遺跡第142次調査を5月7日～5月30日の期間で実施しました。

埋蔵文化財の有無を確認する試掘調査で遺構を検出した2か所をそれぞれ調査区1、2としました。



調査区1 遺構検出写真

調査区1では、地表からアスファルト（4cm）、造成土（約70cm）、包含層（20

～50cm）の下で溝とピットを検出しました。溝は幅約2.8m、深さ約40cmで甕や高坏が出土しており、古墳時代前期の遺構と思われます。

調査区2も調査区1同様の堆積がみられ、遺構検出面から掘立柱建物1棟と溝3条、土坑1基などを検出しました。掘立柱建物の大きさは2間×2間で、まだ調査区外へ広がるようです。建物は出土した土師器から平安時代の時期が考えられ、また、土師器や須恵器の甕などが出土した溝は、古墳時代後期の遺構と推定されます。

（畑本）



当センターでは現在、本年度実施調査に係る整理作業の傍らで、過去に実施した目田川改修工事に係る吉身西遺跡発掘調査出土品を一括収蔵するための再整理作業も行っていきます。乙貞の紙面而言えば、主に現地調査の成果をお伝えしていますが、今回は、目田川改修工事に伴い実施した調査のあらましと特筆すべき出土品について紹介します。



上：第6次調査（1984）航空写真 下：調査風景（左の赤い建物は図書館）

ち、包蔵が確認された全長約500m、幅約25mの範囲を対象に実施されました。

図示するように、上流側は滋賀県立病院前を南北に延びるふれあい通りで、下流側はくすのき通りを更に下った調査範囲を7区間に分けて、昭和59年（1984）から平成9年（1997）の間に、3から85次の順で発掘調査を実施しました。

その結果、弥生時代後期～飛鳥時代、平安時代の生活跡とそれに伴う出土品が検出されました。



第74次調査(1996)作業風景 左の建物は
前図書館、右は県立看護学校



目田川改修工事関連吉身西遺跡調査位置図（黒丸白抜き数次の箇所）

今回は、1994年に実施した61次調査出土の土師器の把手付き鉢を紹介します。出土品は、およそ5分の1の残存品ですが、口径、高さ10cm以下の小型鉢に外上方に湾曲して伸び



左：把手付き鉢とその実測トレース図 右：奈良県葛城市寺口忍海古墳群出土把手付き鉢

る角状把手がついています。把手付き鉢は5世紀後半～6世紀の畿内の古墳や遺跡から少数出土するのみで、市内では初現となります。同じく目田川改修工事に係る吉身西遺跡第74次調査でも、さらにもう1点、把手のみが出土しています。



河川改修後の目田川の様子（左の建物は図書館）

把手付き鉢は、渡来系鍛冶集団の墳墓とされる奈良県葛城市の寺口忍海古墳群からも出土していて、渡来人と密接にかかわる土器と考えられています。

吉身西遺跡の古墳時代集落にも渡来人やその末裔が居住していたことも考えられるようになりました。

今後も興味深い出土品について、乙貞紙面で紹介する予定をしています。

春季講演会を開催しました！

令和7年度春季講演会「魅力発見！守山市の文化財-美術工芸編」を5月17日（土）に開催しました。

今回の講師は、本市文化財保護審議会委員で、文化遺産プランニング代表の井上ひろ美さんです。例年の春季講演会とは趣向を変えて、今回は古文書や仏像など、美術工芸品の調査から中近世の守山の歴史を学び、その視座から原始古代の守山を理解するという目的で開催しました。



春季講演会開催風景

講演していただいた井上さんは、一休和尚の寺として知られる少林寺什物の調査や大庄屋諏



約40名の受講者は熱心に耳を傾けていました。

訪家屋敷に伝わる古文書の調査などに携わられていて、守山市内の美術工芸品に深い造詣を持たれています。

その井上さん、守山市内の数々の美術工芸品の特質をわかりやすく解説された後、「この豊かな歴史・文化財は地域のアイデンティティであり、その保護活用は未来への投資に他ならない」と、文化財の重要性を結論とされました。

井上さん、ご講演ありがとうございました。

埋蔵文化財センター友の会 令和7年度総会・第1回見学会開催！

5月23日（金）、友の会総会と本年度1回目の見学会が開催されました。開催場所は、司馬遼太郎さんが「街道をいく」で最初に訪れた湖西のみち、その終着地であった高島市です。

当日は総会に先立って、県史跡の鴨稻荷山古墳の見学で始まりました。継体天皇にゆかりのある三尾氏の首長が被葬者と推定されている古墳で、半島文化が色濃い副葬品が出土しています。

次に訪れたのは、国史跡の藤樹書院跡で、ここでは、ガイダンス施設である良知館の上田さんの説明を受け、高島市出身で、近江聖人と称えられ



鴨稻荷山古墳見学風景



上：総会開催風景 下：昼食の様子（いき生き水文化かばた館）

る中江藤樹の遺徳を偲ぶことができました。

午前の日程を終えて、いき生き文化かばた館での昼食後、後先にはなりましたが、令和7年度総会を開催し、つつがなく閉会后には、最後の見学先である大溝陣屋総門と高島ビレッジを散策し、日程を終えました。

今回の見学会では、中江藤樹はもとより、継体天皇、藤原仲麻呂などの人物や壬申の乱などを想起させる高島市の歴史と文化を学ぶことができました。

最後になりましたが、総会・見学会の開催にあたって、高島市の多くの皆様方にお世話になりました。感謝申し上げます。

このように、友の会は遺跡や史跡、歴史に興味のある人々が集い、現地見学会などを行っています。興味のある方の入会をお待ちしています。



藤樹書院跡での受講風景

これまでの乙貞や新着情報は、『歴史のまち守山』やFacebookからもご覧いただけます！



◀ 歴史のまち守山はコチラから

<http://moriyama-bunkazai.org> どうやら節句の趣旨は形骸化し、

守山市立埋蔵文化財センターFacebook ページはコチラから▶

<https://www.facebook.com/MaibunMoriyama/?ref=bookmarks>



【後記】5月の春まつりが、近年の乙貞の冒頭に取り上げられたことはないように思います。5月5日は端午の節句、1月7日の人日、3月3日の上巳、7月7日の七夕、そして9月9日の重陽の節句とともに奈良時代に中国より5節句として伝わったとされています。いずれも奇数月の歳時である一方、乙貞が偶数月の発刊であるため、ひな祭りや七夕、菊を愛でる慣習も残念ながら、春まつりと同じく音貞冒頭のくだりにはなっていません。

5節句の成り立ちは陰陽五行説に由来します。奇数は陽、偶数は陰とされ、奇数がゾロ目の節句はさらに吉祥かと思いきや、逆に不吉と考えられてきました。そこで、節句には、邪気払いや禊が執り行われていました。しかし、日本では、1月7日の人日の節句と5月5日の端午の節句では、節会と呼ばれた宴会が催され、大河ドラマ「光る君へ」でも紫式部が舞姫として舞った五節舞が奉じられていたようです。そして、5節句が習俗化すると、その趣旨は形骸化し、七草粥を食べたり、星に願いを込めたりと季節の移ろいを楽しむ麗しき伝統行事に変容したようです。

（馬耳東風）

